



2018年9月5日

各 位

会 社 名 株式会社ジーンテクノサイエンス
代表者名 代表取締役社長 谷 匡 治
(コード番号：4584 東証マザーズ)
問 合 せ 先 執 行 役 員 上 野 昌 邦
経 営 管 理 本 部 長
(TEL. 011-876-9571)

株式会社ジーピーシー研究所への高産生細胞株構築を目指した 基盤技術確立のための委託研究のお知らせ

当社は株式会社ジーピーシー研究所（以下、「ジーピーシー研究所」といいます。）と、バイオ医薬品開発における高産生細胞株の樹立を目的とした委託研究を開始いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 共同研究の目的及び概要

当社は、足元の経営基盤をより強化する目的で、現在バイオ後続品（以下、「バイオシミラー」といいます。）の開発を中心に鋭意、事業を推進しております。近年、バイオシミラーの市場環境は、大型の売上高を誇るブロックバスターと呼ばれる先行品の特許切れが続き、大きな市場が形成されることが望める一方で、これらの市場シェアを獲得すべく各企業の研究開発もより活発化しております。

このような状況下において、当社は各パイプラインの収益性を高めることを目的にバイオ医薬品の原薬製造量の多寡に直結するタンパク質産生細胞株について、より高産生の細胞株を樹立するべく複数のプロジェクトを進めております。これらのプロジェクトを通して高産生の細胞株を産み出す基盤技術を確認することが出来れば、現在開発しているバイオシミラーのみならず、既に研究中や今後手掛けていくバイオ新薬においても原薬製造の効率化および製造コストの低減が図れるものと期待しております。その結果、これらの基盤技術が、当社パイプラインの最終的な上市に向けて競争優位性、収益性およびアライアンスの確度を高めることに大きく貢献するものと考えております。

当該委託研究では、既存のバイオシミラーの産生細胞株に複数の高機能化因子を導入することで、さらなる高産生細胞株を構築することを目指します。これらの高機能因子は、細胞内ストレスを軽減する因子や、細胞内で生産されたタンパク質を細胞外に効率よく分泌する因子で、これらの因子をバランス良く細胞に導入することで、既存の細胞株のタンパク質分泌機能を向上し、原薬製造の効率化並びに製造コストの低減が期待できます。

当該委託研究並びにこれまでに実施してきた株式会社 chromocenter、SOLA Biosciences, LLC 社との一連の共同研究プロジェクトは、それぞれ別の技術を用いて高産生細胞株構築を試みておりますが、最終的には各社との研究成果を融合させ、その価値を最大化することが目的となります。具体的には、細胞株を工場とみなし、遺伝子構成体の最適化により、タンパク質の生産効率を向上し（株式会社 chromocenter）、製造工程における不良品率の軽減を図り（SOLA BioSciences, LLC）、複数の遺伝子発現を制御することにより、製造したタンパク質の細胞外への分泌、即ち、物流の効率化を図ること（ジーピーシー研究所）を技術的な背景としたプロジェクトであります。

このように、当社は「バイオで価値を創造するエンジニアリングカンパニー」として様々なバイオテクノロジーの可能性にチャレンジし、今後も継続的に優れたバイオ医薬品を創出してまいります。そして、疾患で苦しんでおられるより多くの患者様に当社が創薬したバイオ医薬品を届けてまいります。

2. 共同研究先の概要

(1) 名称	株式会社ジーピーシー研究所
(2) 代表者	西田 直史
(3) 設立年	2012年3月
(4) 所在地	鳥取県米子市西町 86 番地
(5) 資本金	2,100,000 円
(6) 事業内容	発光蛍光イメージング技術の医薬品開発分野、ヘルスケア分野への応用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品シーズや機能性成分の評価探索ツールとしての遺伝子導入細胞及び遺伝子改変動物の開発、提供 ・ イメージング技術を用いた動物実験代替法としての評価細胞の開発、提供

3. 今後の見通し

なお、本件に伴う 2019 年 3 月期の業績への影響は軽微の見通しです。

以 上